

神奈川県内地域福祉推進組織（地区社協等）
の担い手に関する調査報告書

2025 年3月

中村美安子

（公立大学法人神奈川県立保健福祉大学）

目 次

I. 調査の概要	2
II. 調査結果概要	3
III. 調査結果	6
IV. 調査票	29

I. 調査の概要

1. 調査目的

担い手の高齢化や不足、次世代確保の問題など地域福祉推進組織（地区社協等）の担い手に関する課題について各所で指摘されているところである。しかし、全国的に見てもその実態についてのデータは整備されていない。

本調査は、神奈川県内における地域福祉推進組織（地区社協等）の担い手に関する実態を把握し、今後の取り組みを検討する上での基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査対象

神奈川県内市区町村社会福祉協議会 58 社協

3. 調査期間

2025 年 2 月 10 日～3 月 19 日

4. 調査方法

調査票はウェブアンケートを活用して作成し、取得した URL を、神奈川県社会福祉協議会地域課からメールにより調査対象に配布、回答者のウェブアンケートへの記入により集計した。

5. 回収率

75.9%（44 社協）

6. 調査協力

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会地域課

＊本研究は、JSPS 科研費 JP19K02269 により実施しました。

Ⅱ．調査結果概要

（１）小地域の地域福祉推進組織（以下「地区社協等」）の有無

８割（77.3％）の社協でほぼ全地区に地区社協等が設置されている。

（２）地区社協等の活動歴

最も活動歴が長い地区社協等は、「50 年以上」が 6 割（58.3％）で、最も歴史が短い地区社協等は、「20 年以上」が半数（50％）、「10 年以上」が 8 割（80.6％）である。

（３）地区社協等の会長の年齢層

「主に 70 歳代」が 9 割（88.9％）、「主に 80 歳代」が 1 割（11.1％）である。「主に 60 歳代」、「主に 60 歳代未満」はない。

（４）会長以外の役員（副会長、理事など）の主な年齢層

「70 歳代」が 9 割強（97.2％）である。

（５）役員以外の主なメンバーの年齢層

「主に 70 歳代」が 9 割（88.9％）である。

（６）地区社協等担い手の高齢化の状況

地区社協等担い手の高齢化は、9 割（88.9％）の社協が地区で課題化していると回答し、課題化していないと回答した社協はない。

（７）主な担い手（役員や地域活動メンバー）が高齢化することによる課題（複数回答）

「新しい取り組みがしづらい」8 割（77.8％）、「従来の活動を見直せない」「新しいメンバーが入りにくい」がそれぞれ 7 割（69.4％）である。

（８）主な担い手が高齢化したり高齢者が中心となることの効果、良さ（複数回答）

「高齢者の社会参加の場になる」が 9 割（86.1％）、「地域の信頼が得られる」8 割（77.8％）である。

（９）地区社協の担い手の人数について不足はあるか

「不足」が 6 割（63.9％）、やや不足が 2 割（22.2％）である。

（10）人数以外で現在不足していると思われる参加者層（複数回答）

「既存メンバーより若い人」8割（77.8%）、「新しく参加する人」8割（75.0%）、「役員になれる人」7割（66.7%）である。

（11）地区社協等の新しい担い手はみつまっているか

「全くみつかっていない」はないが、「ほとんどみつかっていない」は7割（72.2%）を占める。

（12）新しい担い手がみつかる場合の年齢層

「70歳代」4割（41.7%）、「60歳代」4割（36.1%）で、「どの年齢層でもみつけれない」が2割（19.4%）ある。

（13）参加を働きかけるとしたら、主にどの年齢層をターゲットにすべきだと考えるか

「60歳代」が7割（72.2%）で最も多い。「70歳代」は1割（11.1%）である。

（14）地区社協等で役員など運営の担い手を見つける方法（複数回答）

「当て職」8割（80.6%）、「役員・メンバーの口コミ」8割（77.8%）である。

（15）地区社協等が役員以外の担い手を見つける方法（複数回答）

「役員・メンバーの口コミ」8割（83.3%）で、役員などを見つける方法として8割を占めた「当て職」は5割（47.2%）である。

（16）うまく新しい担い手を見つけている社協等はあるか

「ある」（47.2%）、「ない」（52.8%）でおおむね半数ずつである。

（17）「ある」場合の新しい担い手を見つけている方法

「接点ができた人物に働きかける」「新しい層・若い層への働きかけ」「当て職や持ち回りでの開拓」に関する内容が回答されている。

（18）地区社協等の担い手を見つけるために社協として取り組んでいる支援（複数回答）

「社協が担い手になりそうな人に声かけ」4割（41.7%）、「社協開催の研修会などで募集を伝える」3割（33.3%）、「特段支援なし」は1割ある。

（19）新しい担い手を見つける上での地区社協等の課題と思うこと（複数回答）

「活動内容の見直し」6割（58.3%）、「新しい参加者を探す方法がわからない」「長く活動しているメンバーの引退などメンバーの入れ替え」がそれぞれ5割（47.2%）、「新しい参加者をうまく受け入れられていない」4割（41.7%）である。

（20）担い手メンバーの拠り所となる空間や居場所（複数回答）

「会議や、行事など集まる機会」が 8 割（75.0%）、「自分たちの拠点がある」は 5 割（50.0%）ある。

（21）地区社協等で常時専有できる活動場所（活動拠点）をもつことについて

「活動拠点がすでにある」が 4 割（36.1%）あり、「無料・低額の場所があればほしい地区はたくさんある」は 3 割（30.6%）、「無料・低額の場所があればほしい地区は一部にはある」3 割（25.0%）で、無料・低額の場所があればほしい地区はあるという回答が 6 割（55.6%）ある。

（22）買い物や片付けのような生活支援活動への取り組みの有無

「一部の地区で取り組んでいるが広がりはない」が 3 割（33.3%）、「一部の地区で取り組んでおり広がりつつある」が 3 割（25.0%）で、「取り組んでいる地区がある」はあわせて 6 割（58.3%）ある。

Ⅲ. 調査結果

1. 回答社協内訳

回答社協は、政令市の区 17（38.6%）、市 14（31.8%）、町村 13（29.5%）である。

回答社協内訳 n=44

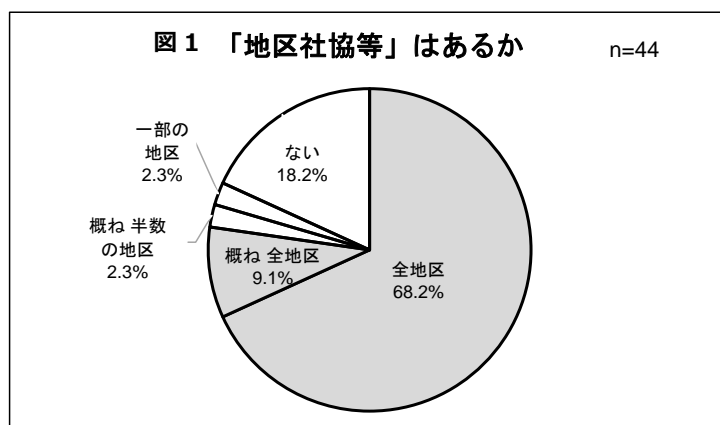
政令市の区	市	町村	合計
17	14	13	44
38.6%	31.8%	29.5%	100%

2. 小地域の地域福祉推進組織（以下「地区社協等」）はあるか

「全地区にある」30（68.2%）、「概ね全地区にある」4（9.1%）で、あわせて 34（77.3%）、8 割の地域でほぼ全地区に地区社協等が設置されている。地区社協等が「ない」は 8（18.2%）である。

表 1 地区社協等はあるか n=44

全地区	概ね全地区	概ね 半数の地区	一部の地区	ない	合計
30	4	1	1	8	44
68.2%	9.1%	2.3%	2.3%	18.2%	100.0%

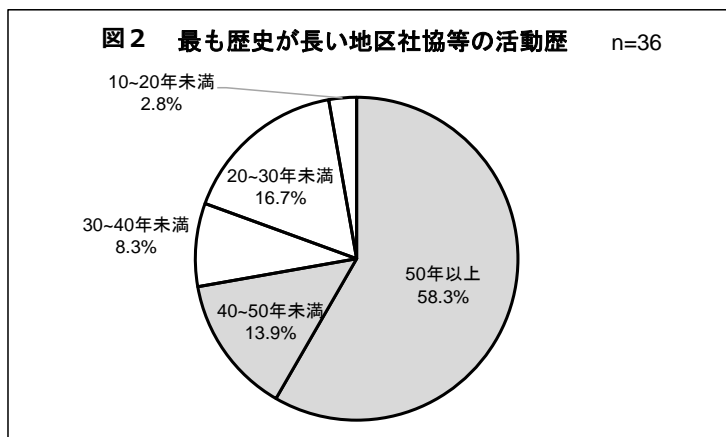


3. 最も歴史が長い地区社協等の活動歴

「50 年以上」21（58.3%）と 6 割を占めた。10 年未満はない。

表 2 最も歴史が長い地区社協等の活動歴 n=36

50年以上	40～50年 未満	30～40年 未満	20～30年 未満	10～20年 未満	5～10年 未満	5年未満	合計
21	5	3	6	1	0	0	36
58.3%	13.9%	8.3%	16.7%	2.8%	0.0%	0.0%	100.0%

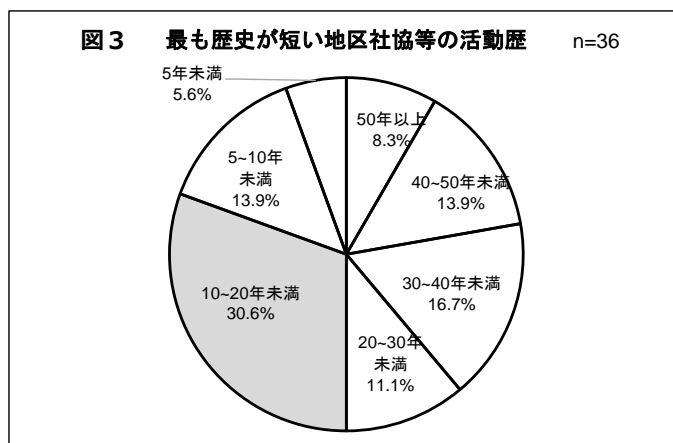


4. 最も歴史が短い地区社協等の活動歴

「10～20 年未満」が 11（30.6%）で最も多い。20 年以上はあわせて 18（50%）で半数を占める。10 年以上はあわせて 29（80.6%）で 8 割を占め、10 年未満は 7（19.4%）で 2 割である。

表 3 最も歴史が短い地区社協等の活動歴 n=36

50年以上	40～50年 未満	30～40年 未満	20～30年 未満	10～20年 未満	5～10年 未満	5年未満	合計
3	5	6	4	11	5	2	36
8.3%	13.9%	16.7%	11.1%	30.6%	13.9%	5.6%	100.0%

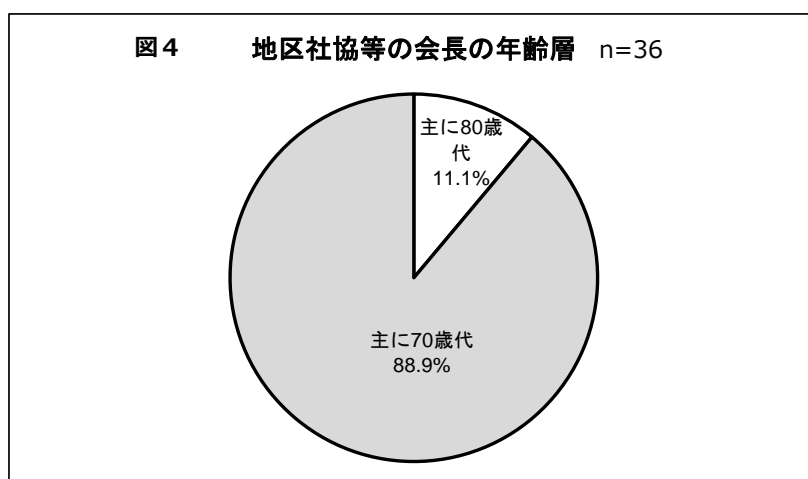


5. 地区社協等の会長の年齢層

「主に70歳代」が32（88.9%）、「主に80歳代」が4（11.1%）で「主に60歳代」、「主に60歳代未満」はない。

表4 地区社協等の会長の年齢層 n=36

主に80歳代	主に70歳代	主に60歳代	主に60歳未満	合計
4	32	0	0	36
11.1%	88.9%	0.0%	0.0%	100.0%

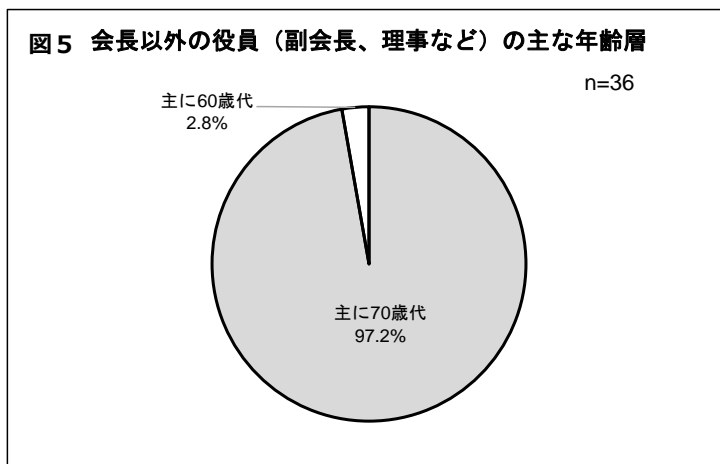


6. 会長以外の役員（副会長、理事など）の主な年齢層

会長以外の役員（副会長、理事など）の主な年齢層については、「主に 80 歳代」「60 歳代未満」はなく、「主に 70 歳代」が 35（97.2%）で大半を占めた。「主に 60 歳代」は 1（2.6%）である。

表 5 会長以外の役員（副会長、理事など）の主な年齢層 n=36

主に80歳代	主に70歳代	主に60歳代	主に60歳未満	合計
0	35	1	0	36
0.0%	97.2%	2.8%	0.0%	1

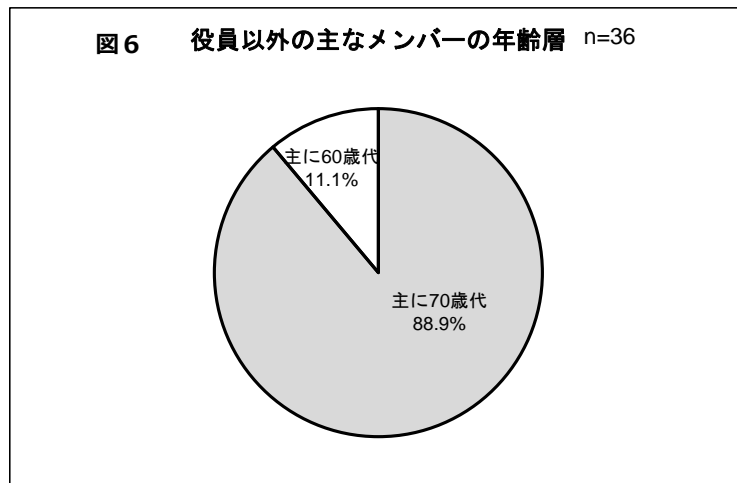


7. 役員以外の主なメンバーの年齢層

役員以外で地区社協等の活動を担っている主なメンバー（例えばサロンの担い手等の活動者など）の年齢層については、「主に 80 歳代」「60 歳代未満」はなく、「主に 70 歳代」が 32（88.9%）と大半を占めた。「主に 60 歳代」が 4（11.1%）である。

表 6 役員以外の主なメンバーの年齢層 n=36

主に80歳代	主に70歳代	主に60歳代	主に60歳未満	合計
0	32	4	0	36
0.0%	88.9%	11.1%	0.0%	100%



8. 地区社協等の担い手（役員や地域活動メンバー）の年齢層などについての自由記述

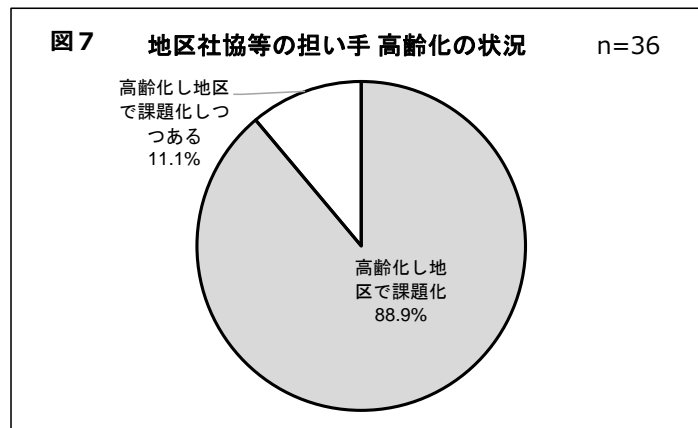
- ・ 地区社協の役員について、役員の年齢を訪ねたことがなく、詳細なデータが把握できていない状況です。おそらく概ね 70 代前後の方が多いと思いますが、感覚的な把握の域を出ていないと思われます。
- ・ 小地域福祉活動推進組織の役割・機能を有する生活支援体制整備事業第 2 層協議体では、日頃の地域交流促進のための取組みの企画・準備段階から子育て世代など若い年齢層の人材の発掘や協働を図っている。
- ・ 80 代会長の地区と 70 代会長の地区その割合は半々ぐらいです。
- ・ 地域によって 80 歳代の役員や地域活動メンバーがある。
- ・ 70 代といっても 70 代後半だと思います。区域の地区社協の会議ではよく働かないと生活できないから 70 代までは仕事をし、地域活動に参加することが難しくなっているとの意見が出ます。
- ・ 設立して 30～40 年経っていますが、設立当初の担い手が残っている地区社協は多い。
- ・ 主な層は 70 代だが、80 代への担い手も多い
- ・ 地区によっては部会制となっており、対象者や実施事業の内容によっては若干年齢層が低くなることがあります。（こどもを対象とした事業では比較的担い手の平均年齢が下がります）
- ・ 地区社協代表者の年齢は 70 代、80 代半々程度

9. 地区社協等担い手の高齢化の状況

地区社協等担い手の高齢化は、32（88.9%）が地区で課題化しており、4（11.1%）が課題化しつつあると回答している。課題化していないと回答した社協はない。

表7 地区社協等担い手の高齢化の状況 n=36

高齢化し 地区で課 題化	高齢化し 地区で課 題化しつ つある	高齢化し 地区で課 題化する も解消	高齢化だ が課題化 なし	高齢化な しも課題 化	高齢化せ ず課題化 もなし	合計
32	4	0	0	0	0	36
88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



10. 主な担い手（役員や地域活動メンバー）が高齢化することによる課題

「新しい取り組みがしづらい」28（77.8%）、「従来の活動を見直せない」と「新しいメンバーが入りにくい」がそれぞれ 25（69.4%）である。その他は、14（38.9%）ありその内容は以下である。

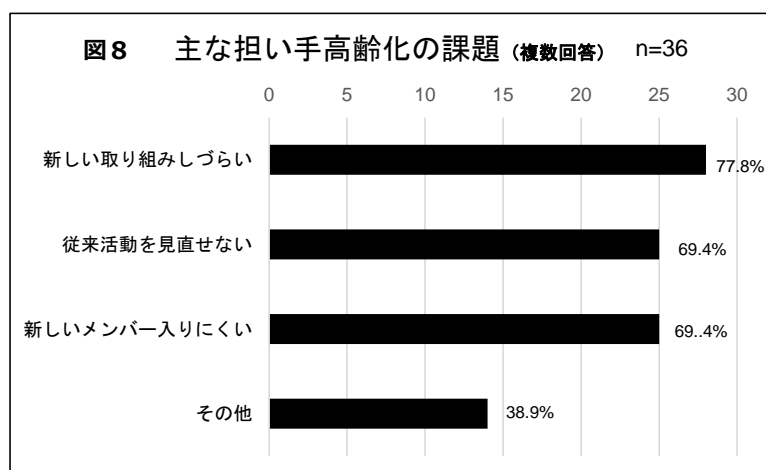
<その他>

- ・次の担い手確保も難しいため、団体の存続に危機がある。
- ・従来の活動の継続が難しくなっている（又は、活動の縮小・休止に至っている）
- ・若い世代との考え方の相違が顕著になる。
- ・食事会やサロン等の既存活動の維持ができなくなる。
- ・耳が遠くなり話し合い（グループワーク研修）がしづらくなる。
- ・活動の負担感が増え、継続すること自体が難しい
- ・コロナ禍の影響もあり、今までの活動も維持できなくなっている。

- ・既存事業の継続も難しくなってくる。
- ・構成団体の当て職
- ・活動にかかわる時間が縮小し手が足りなくなる、できる人への負担が増す。
- ・地区によって当てはまる地区とそうでない地区があります。
- ・身体的な負担
- ・活動の継続が困難（先行きが不安）
- ・従来の活動を維持することも困難な状況
- ・老人クラブなど解散する団体が存在する。

表8 主な担い手高齢化の課題（複数回答） n=36

新しい取り組みしづらい	従来活動を見直せない	新しいメンバー入りにくい	その他
28	25	25	14
77.8%	69.4%	69.4%	38.9%



11. 主な担い手が高齢化したり高齢者が中心となることの効果、良さ

「高齢者の社会参加の場になる」が 31（86.1%）と最も多く、次いで地域の信頼が得られる 28（77.8%）であった。「豊富な経験を活かした活動ができる」は 23（63.9%）、「豊富なネットワークを活かした活動ができる」が 20（55.6%）であった。その他は 2（5.6%）でその内容は以下である。

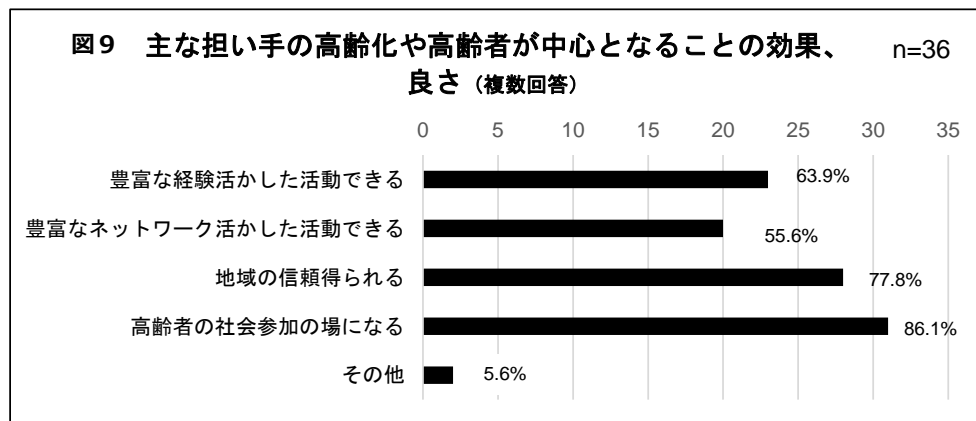
<その他>

- ・活動が継続されている。
- ・活動歴が長く実績のある方であれば、「信頼が得られる」は当てはまる。

・就労世代と比べ時間的な融通の利きやすさがある。

表9 主な担い手が高齢化したり高齢者が中心となることの効果、良さ（複数回答）n=36

豊富な経験活かした活動できる	豊富なネットワーク活かした活動できる	地域の信頼得られる	高齢者の社会参加の場になる	その他
23	20	28	31	2
63.9%	55.6%	77.8%	86.1%	5.6%

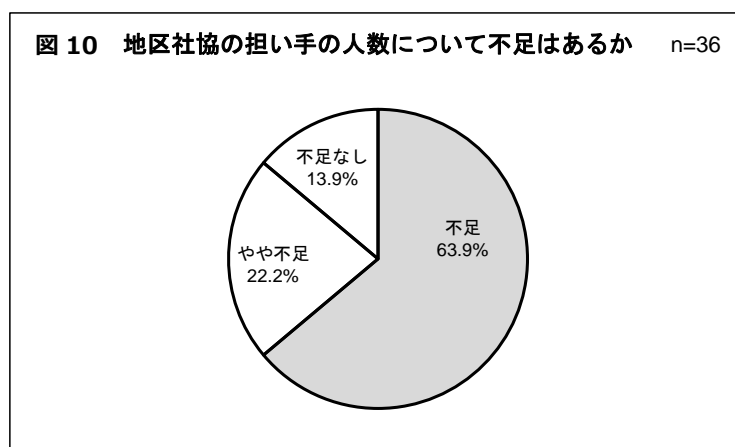


12. 地区社協の担い手の人数について不足はあるか

「不足」が23（63.9%）、やや不足が（22.2%）で「不足なし」は5（13.9%）である。

表10 地区社協の担い手の人数について不足はあるか n=36

不足	やや不足	不足なし	合計
23	8	5	36
63.9%	22.2%	13.9%	100.0%



13. 人数以外で現在不足していると思われる参加者層

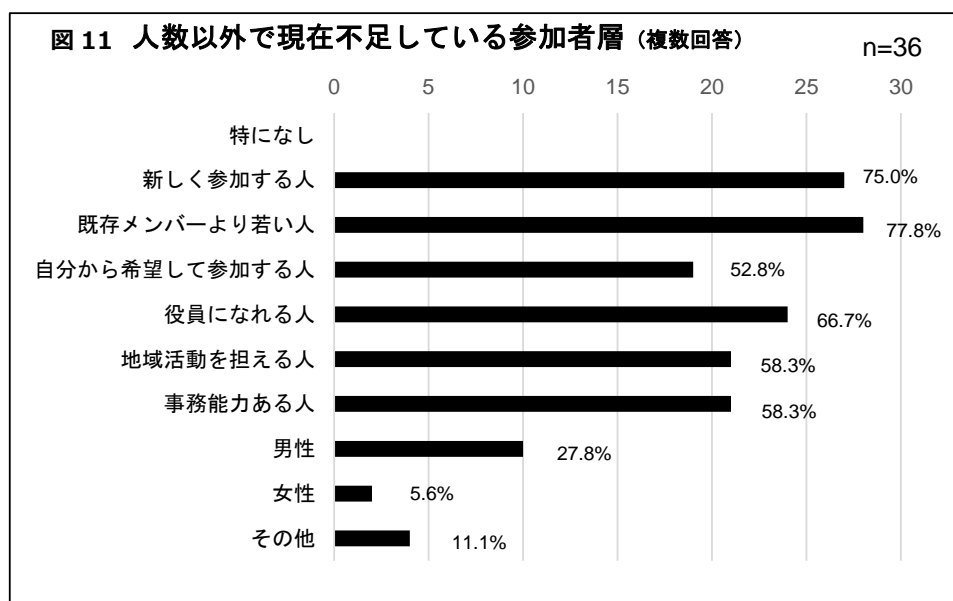
「既存メンバーより若い人」28（77.8%）、「新しく参加する人」27（75.0%）が多く、次いで「役員になれる人」24（66.7%）であった。その他は4（11.1%）でその内容は以下である。

<その他>

- ・充て職で地区社協の担い手になっているケースが大半であり、活動意欲や実行力が低い
- ・実際の地域活動でリーダーシップを発揮できる人、ちよいボウのような一部分やスポット的にでも職能などを提供できる人
- ・ICT 活用をけん引できる人／新しいことを「試してみよう」という人
- ・民生委員とボランティアグループ以外の所属等

表 11 人数以外で現在不足している参加者層（複数回答） n=36

特になし	新しく参加する人	既存メンバーより若い人	自分から希望して参加する人	役員になれる人	地域活動を担える人	事務能力ある人	男性	女性	その他
0	27	28	19	24	21	21	10	2	4
0.0%	75.0%	77.8%	52.8%	66.7%	58.3%	58.3%	27.8%	5.6%	11.1%



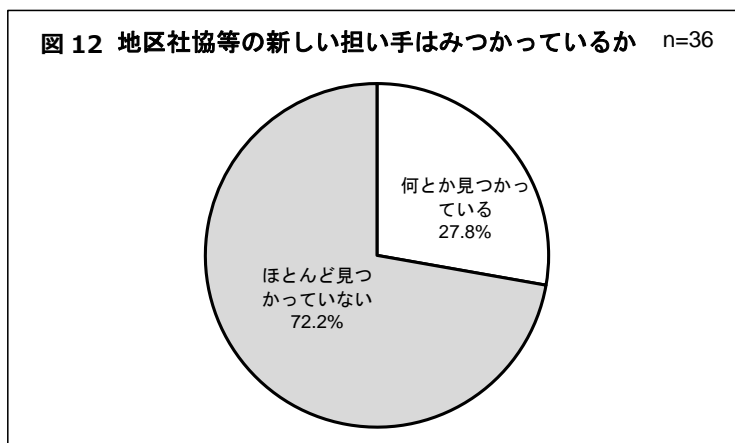
14. 地区社協等の新しい担い手はみつまっているか

地区社協等の新しい担い手については、「見つまっている」と「全くみつからない」はないが、「ほとんどみつからない」が 26（72.2%）を占め、「」何とか見つまっている」が 10（27.8%）である。

表 12 地区社協等の新しい担い手はみつまっているか n=36

みつまっている	何とか見つまっている	ほとんどみつからない	全くみつからない	合計
0	10	26	0	36
0.0%	27.8%	72.2%	0.0%	100.0%

図 12 地区社協等の新しい担い手はみつまっているか n=36



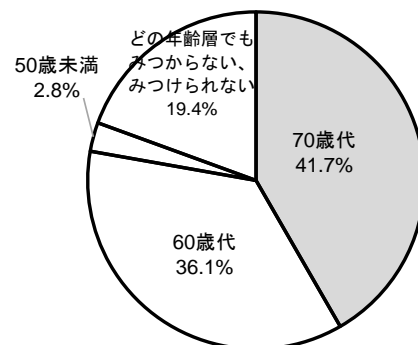
15. 新しい担い手がみつかる場合の年齢層

「70 歳代」15（41.7%）、「60 歳代」13（36.1%）で合わせて 28（77.7%）で 8 割を占め、「50 歳未満」が 1（2.8%）あった。「どの年齢層でもみつけれない」が 7（19.4%）ある。

表 13 新しい担い手がみつかる場合の年齢層 n=36

80歳以上	70歳代	60歳代	50歳代	50歳未満	どの年齢層でもみつけれない	合計
0	15	13	0	1	7	36
0.0%	41.7%	36.1%	0.0%	2.8%	19.4%	100.0%

図 13 新しい担い手がみつかる場合の年齢層 n=36



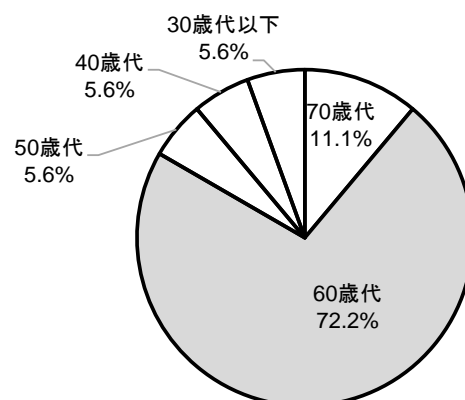
16. 参加を働きかけるとしたら、主にどの年齢層をターゲットにすべきだ考えるか

「60 歳代」が 26（72.2%）と最も多く、「70 歳代」4（11.1%）、「50 歳代」「40 歳代」「30 歳代以下」はそれぞれ 2（5.6%）である。

表 14 参加を働きかけるターゲットの主な年齢層 n=36

80歳以上	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代以下	合計
0	4	26	2	2	2	36
0.0%	11.1%	72.2%	5.6%	5.6%	5.6%	100.0%

図 14 参加を働きかけるターゲットの主な年齢層 n=36



17. 地区社協等で役員など運営の担い手をどう方法でみつけているか

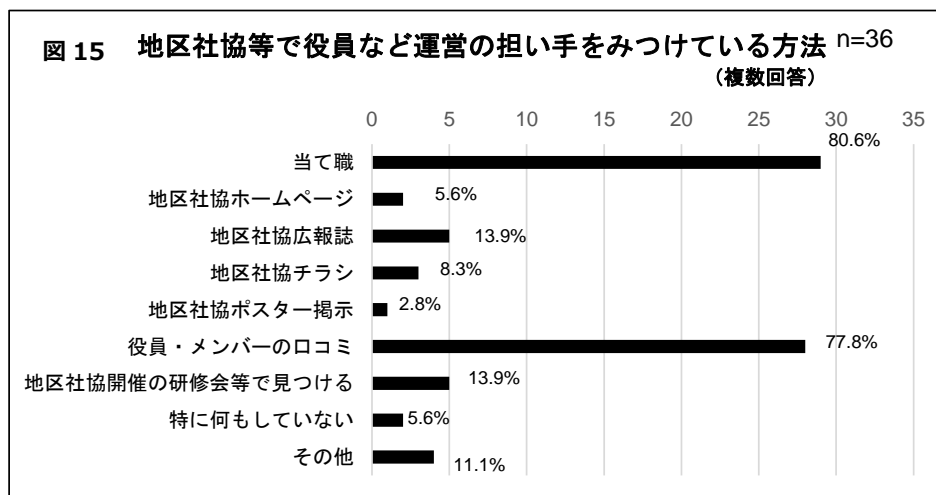
最も多いのは「当て職」で 29（80.6%）、次いで「役員・メンバーの口コミ」が 28（77.8%）である。「地区社協広報誌」「地区社協開催の研修会等で見つける」はそれぞれ 5（13.9%）で、「特に何もしていない」は 2（5.6%）であった。その他が 4（11.1%）でその内容は以下である。

<その他>

- ・地区社協で活動している人（少しでも）
- ・地域の子供会→PTA→町会といった流れから
- ・地区により役員選任の委員会などを設置しているところがある
- ・地域の事業等に参加している、この人はという方を一本釣り

表 15 地区社協等で役員など運営の担い手みつけている方法（複数回答）n=36

当て職	地区社協ホームページ	地区社協広報誌	地区社協チラシ	地区社協ポスター掲示	役員・メンバーの口コミ	地区社協開催の研修会等で見つける	特に何もしていない	その他
29	2	5	3	1	28	5	2	4
80.6%	5.6%	13.9%	8.3%	2.8%	77.8%	13.9%	5.6%	11.1%



18. 地区社協等が役員以外の担い手をどう方法でみつけているか

最も多いのは「役員・メンバーの口コミ」で 30(83.3%)を占める。役員で最も多かった「当て職」は 17（47.2%）である。「地区社協広報誌」「地区社協チラシ」はそれぞれ 10（27.8%）で「地区社協開催の研修会等で見つける」は 7（19.4%）、「特に何もしていない」は 3（8.3%）である。

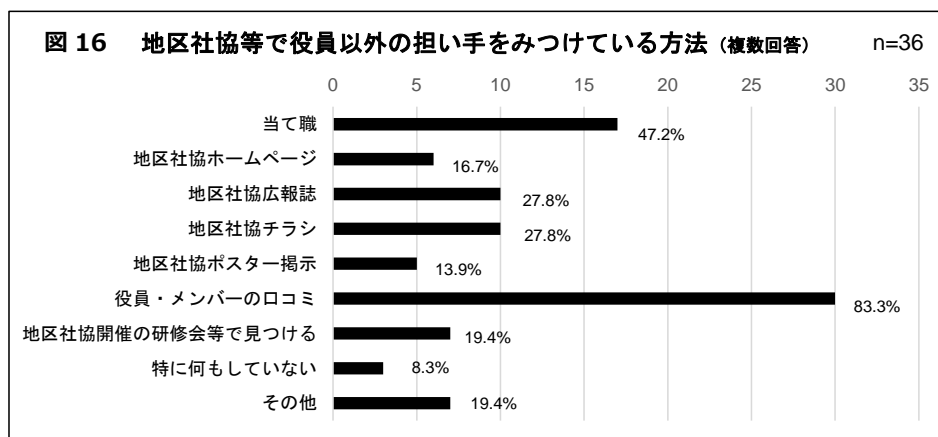
その他が7（19.4%）でその内容は以下である。

<その他>

- ・地域活動団体（民生、保健活動推進委員、青少年指導員等の）から手伝いを〇名出してくださいと依頼。
- ・地域の子供会→PTA→町会といった流れから
- ・構成団体でみつけている
- ・社会福祉推進委員が地区社協活動の大きな担い手になっている。
- ・麻雀教室など地域の楽しみの場を開催し、担い手獲得につなげる地区もある
- ・地区の関連団体から参加していただいている
- ・退任自治会長、退任民生委員を登録する

表 16 地区社協等が役員以外の担い手みつっている方法（複数回答） n=36

当て職	地区社協ホームページ	地区社協広報誌	地区社協チラシ	地区社協ポスター掲示	役員・メンバーのロコミ	地区社協開催の研修会等で見つける	特に何もしていない	その他
17	6	10	10	5	30	7	3	7
47.2%	16.7%	27.8%	27.8%	13.9%	83.3%	19.4%	8.3%	19.4%



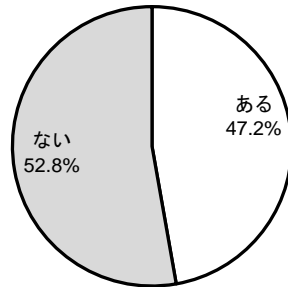
19. うまく新しい担い手を見つけている地区社協等はあるか

「ある」が17（47.2%）あり、「ない」19（52.8%）でおおむね半数ずつである。

表 17 うまく新しい担い手を見つけている地区社協等はあるか n=36

ある	ない	合計
17	19	36
47.2%	52.8%	100.0%

図 17 うまく新しい担い手を見つけている地区社協等
はあるか n=36



20. 「ある」場合の新しい担い手を見つけている方法

<要約>

1. 接点ができた人物に働きかける

- ・地区社協を辞めた後に人材バンク的に協力者として残る仕組み
- ・地区長経験者が地区社協役員になる仕組みにする
- ・自治会長や民生委員を退任する際に有力な人にはボランティア登録をもらい、地区社協の部会に入ってもらい仕組みを設け。

2. 新しい層・若い層への働きかけ

- ・おやじの会や PTA と地区社協会長が交流
- ・子どもを取り込んだ事業や IT 関係で若い人の参加を図る
- ・PTA や子育てサロンにかかわっている若い層を巻き込む
- ・子供中心のイベントを開催し保護者に声かけ
- ・活動内容によって呼びかけ先を変え、子育て層など比較的若い層の獲得を図る
- ・講座や研修会を開催し、参加者にライン登録を呼びかけ、登録者に参加を呼び掛ける取り組み
- ・町会長が地域で活動している人に声掛けをする。
- ・初心者向けの麻雀教室など楽しむ場をつくり参加者に働きかける
- ・活動内容によって呼びかけ先を変える
- ・地区で住民アンケートを実施し担い手を発掘
- ・助成金を広く出すことで新たな活動者を発掘

3. 当て職や持ち回りでの開拓

- ・自治会の中で持ち回りにしている

- ・当て職から新たな担い手を発掘

＜記載ママ＞

- ・地区社協を辞めた後に人材バンク的な形で協力者として残る仕組みがある。役員は担わないが、協力者として行事に当日の参加を呼び掛ける。後は、うまく担い手を見つけている仕組みに当たるかどうかの賛否はあると思いますが、自治会の福祉部の位置づけのような役割の中で、自治会の持ち回りで数年先まで決定している場合もあります。
- ・役員や活動メンバーは現役員や活動者の口コミから巻き込むことが多いと思われます。
- ・活動メンバーや協力メンバーなどを普遍的にはせず、各活動の目的・内容・テーマなどに応じて、担い手や協力者の呼びかけ先などを変えながら、新たな比較的若い世代（子育て層）の獲得を図っている地区がある。
- ・こどもを取り込んだ事業や IT 関係で若い人が参加している。
- ・PTA とか子育てサロンに関わっている若い世代の人を地区社協活動メンバーに引き込んでいます。
- ・子どもメインのイベントを開催し、子どもの保護者に声をかけている。
- ・町会との密な関係づくりにより地域で活動している方に町会長より声掛け
- ・一本釣り
- ・初心者向けの麻雀教室を開催。定期的に合う場面を作り、参加・修了者に活動への声かけをするなど楽しみの場から担い手へつなぐ場面を持っている。
- ・おやじの会や PTA に目を向け、会長が積極的に交流を図っている。
- ・①メンバーが楽しく活動することで自然と人の輪が広がる ②学校と連携して子どもたちが参加しやすい仕組みづくりをしている。
- ・人づてで担い手を探しあてた。また、組織体制から当て職ではあるが新たな担い手が入るような流れを作っている。また、助成金を広く地区で出すことにより新たな活動者を発掘する仕組みを作っている。
- ・企業や福祉事業所、生活支援型の NPO 等に参画いただいている。
- ・地区全体で住民アンケートを行い、担い手発掘につながった。
- ・地区長を経験された方が地区社協の役員（会長）の担い手になるなどの仕組みが出来てくる
- ・有力な自治会長、民生委員が退任するとボランティアの登録制度に登録してもらい、地区社協の部会に入ってもらい仕組みを設けている。他に講座や研修会の開催し、参加者に対し公式 LINE への登録を呼びかけ、登録者に対し参加を呼び掛ける取組を進めている。

21.地区社協等の担い手を見つけるために社協として取り組んでいる支援

「社協が担い手になりそうな人に声かけ」が最も多く 15（41.7%）、次いで「社協開催の研修会などで募集を伝える」12（33.3%）、「特段支援なし」5（13.9%）である。その他は 14

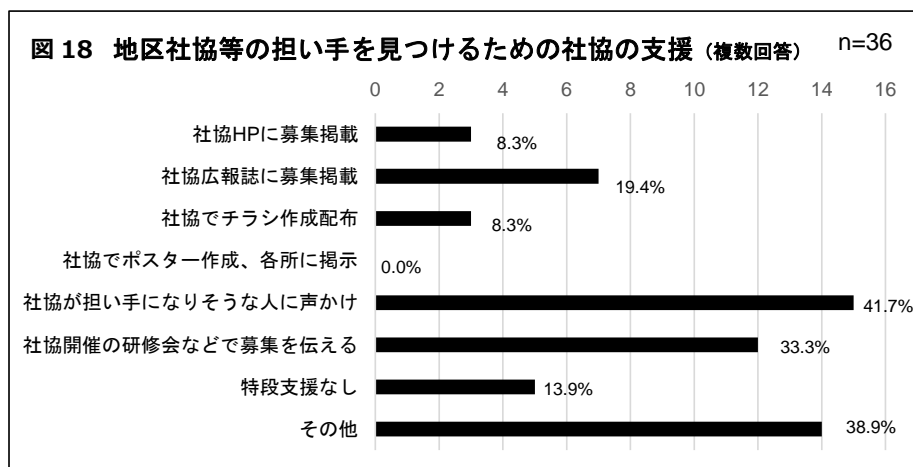
(38.9%) でその内容は以下である。

<その他>

- ・地区社協の役員会に参加する中で、可能な範囲での助言を行う。
- ・ボランティアセンターの登録者への声かけ(自身の住む地域でのボラ活動について案内)
- ・今後の地域活動デビューを応援する取り組みを検討中(例：ガイドブックの発行・配布、講座・体験会の実施、集いの場(居場所)づくりに取り組む団体等の情報交換・共有の場づくりなど)
- ・地区支援をしていく中で地域と一緒に考えている。
- ・ボランティアや地域福祉活動に関心を持つ人が増えるよう地域福祉講演会やボランティア入門講座を開催している。
- ・地区社協広報誌の配布
- ・講座開催
- ・地区社協の広報紙を町社協ホームページに載せている
- ・担い手募集につながるような地区でのイベント、研修等の開催を支援、協力している
- ・地区社協として募集していない。
- ・地区社協分科会にて「担い手の発掘・育成」というテーマで意見交換を行った。
- ・地区社協事務局長による担い手プロジェクトを R6 に実施
- ・企業、福祉事業所等に参加を求める。
- ・ボランティアセンターや他の市社協事業の登録者に地区の情報を提供している。(地区から連絡してもよい承諾を得ている)

表 18 地区社協等の担い手を見つけるための社協の支援(複数回答) n=36

社協HPに募集掲載	社協広報誌に募集掲載	社協でチラシ作成配布	社協でポスター作成、各所に掲示	社協が担い手になりそうな人に声かけ	社協開催の研修会などで募集を伝える	特段支援なし	その他
3	7	3	0	15	12	5	14
8.3%	19.4%	8.3%	0.0%	41.7%	33.3%	13.9%	38.9%



22. （現在のメンバーで）新しい担い手を見つける上での地区社協等の課題と思うこと

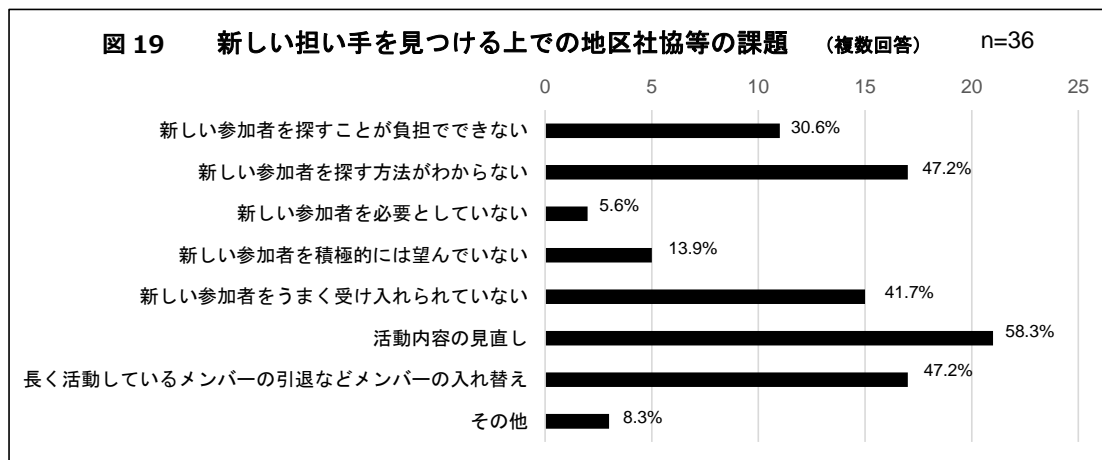
最も多いのは「活動内容の見直し」で 21（58.3%）、次いで「新しい参加者を探す方法がわからない」「長く活動しているメンバーの引退などメンバーの入れ替え」がそれぞれ 17（47.2%）、「新しい参加者をうまく受け入れられていない」15（41.7%）である。その他は 3（8.3%）でその内容は以下である。

<その他>

- ・地元地域内の各種団体等とのさらなる関係づくり
- ・今いるメンバーでやってしまい、新しいメンバーを育成する雰囲気がない。
- ・チラシなどでの周知や知り合いへの声かけなど行っているが、効果が出ず、手詰まり状態である。

表 19 新しい担い手を見つける上での地区社協等の課題と思うこと（複数回答） n=36

新しい参加者を 探すことが負担で できない	新しい参加者を 探す方法がわか らない	新しい参加者を 必要としてい ない	新しい参加者を 積極的に望んで いない	新しい参加者を うまく受け入れ られていない	活動内容 の見直し	長く活動して いるメンバーの 引退などメン バーの入れ 替え	その他
11	17	2	5	15	21	17	3
30.6%	47.2%	5.6%	13.9%	41.7%	58.3%	47.2%	8.3%



23. 担い手メンバーの拠り所となる空間や居場所

最も多いのは「会議や、行事など集まる機会」で 27（75.0%）、「自分たちの拠点がある」は 18（50.0%）ある。その他 2（5.6%）の内容は以下である。

<その他>

- ・連合会館、自治会館、地域ケアプラザを借りている。

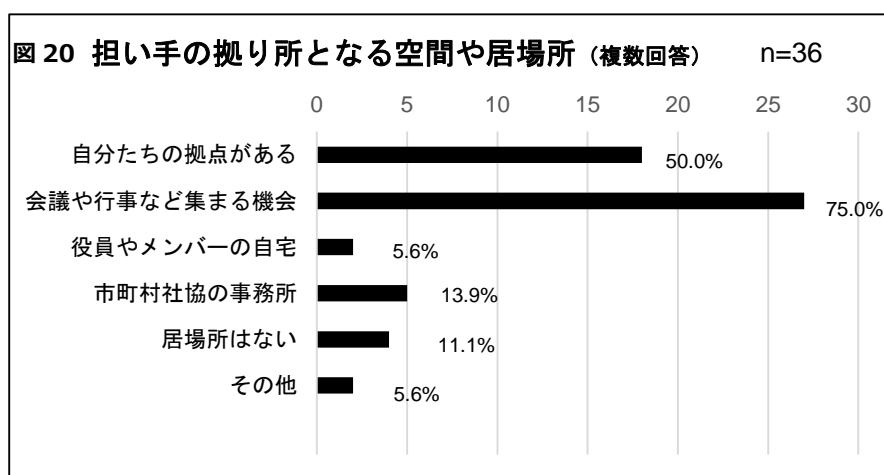
・地区の公民館、児童館等（自治会で管理している施設）

* 上記以外に補足意見として以下があった。

- ・会議等を開催する場所として「地区ボランティアセンター」がある地区は11か所中5か所あるが、役員やボランティアが集っている居場所ではない。
- ・拠点を持っている地区とない地区がある。
- ・地区社協の拠点を持っている地区と持っていない地区がある。
- ・第2層協議体、地域の話し合いの場があります。

表 20 担い手メンバーの拠り所となる空間や居場所（複数回答） n=36

自分たちの拠点がある	会議や行事など集まる機会	役員やメンバーの自宅	市町村社協の事務所	居場所はない	その他
18	27	2	5	4	2
50.0%	75.0%	5.6%	13.9%	11.1%	5.6%

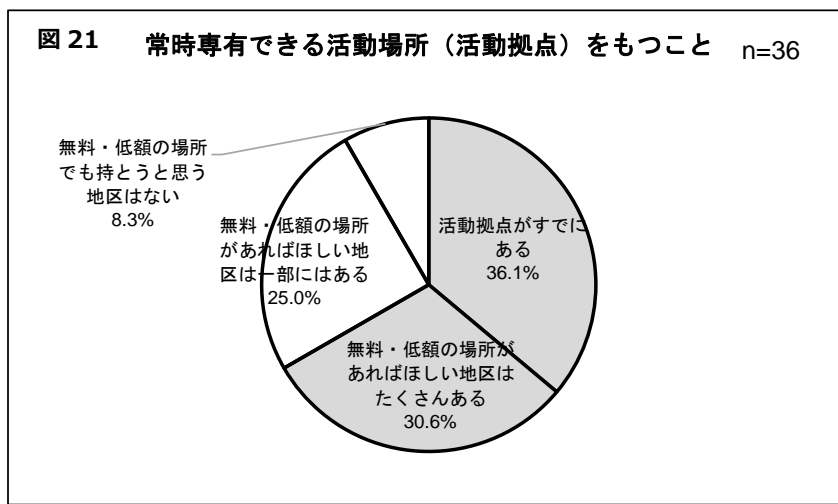


24. 地区社協等で常時専有できる活動場所（活動拠点）をもつこと

「活動拠点がすでにある」が13（36.1%）あり、「無料・低額の場所があればほしい地区はたくさんある」は11（30.6%）、「無料・低額の場所があればほしい地区は一部にはある」9（25.0%）で、無料・低額の場所があればほしい地区はあるという回答が20（55.6%）ある。

表 21 地区社協等で常時専有できる活動場所（活動拠点）をもつこと n=36

活動拠点が すでにある	無料・低額の 場所があれば ほしい地区は たくさんある	無料・低額の 場所があれば ほしい地区は 一部にはある	無料・低額の 場所でも持と うと思う地区 はない	合計
13	11	9	3	36
36.1%	30.6%	25.0%	8.3%	100.0%



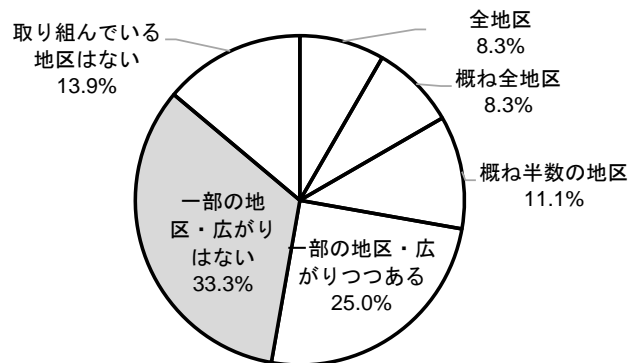
25. 買い物や片付けのような生活支援活動への取り組み

「一部の地区で取り組んでいるが広がりはない」が最も多く 12（33.3%）、次いで「一部の地区で取り組んでおり広がりつつある」が 9（25.0%）で「取り組んでいる地区がある」は 21（58.3%）で 6 割である。「取り組んでいる地区はない」は 5（13.9%）である。

表 22 買い物や片付けのような生活支援活動への取り組み n=36

全地区で取 り組んでい る	概ねすべて の地区で取 り組んでい る	概ね半数 の地区で 取り組ん でいる	一部の地区 で取り組み 広がりつつ ある	一部の地区 で取り組む が広がり はない	取り組ん でいる地 区はない	合計
3	3	4	9	12	5	36
8.3%	8.3%	11.1%	25.0%	33.3%	13.9%	100.0%

図 22 買い物や片付けのような生活支援活動への取り組み n=36



26. 地区社協等について、あるいはそれに限らずボランティアや住民の福祉活動の担い手に関して社協として課題と考えることなど 自由記述

<要約>

- ・働く高齢者の増加による既存活動の継続の困難、新しい担い手の不足が進行
- ・地域デビューが 70 歳となってきたことにどう対応するか。
- ・現在の活動者（地区社協役員など）が複数の役割を担う負担とそれによる新たな人材開拓の難しさ
- ・「若い人」と現在の活動者との世代間ギャップ（考え方や SNS など使用ツールほか）がうまくめられない。
- ・若い世代、今までかわりのない層、既存の地域団体に参加していない層、福祉以外で活動している人々への接点づくりや周知の方法の検討が必要
- ・個人で活動したい人はいるがうまく活動をさがせていない。
- ・若い人に任せられないが続けられないという状況になっている地区がある。
- ・福祉以外の場に参加する市民はいる。
- ・企業や福祉事業所、生活支援型 NPO 等をいかに地区社協に参画してもらうかが重要

<記載ママ>

（地区社協ありの社協）

- ・地域の特性上、高齢になっても身体が元気な限りは働き口があり勤務していることが多く、福祉活動の担い手になることが困難である。
- ・どの地区においても、新たに担い手になってくれる人材が乏しい。

・①地域の活動に力や時間を注ぐことのできる方がいない。（働いている高齢者が増加【70 歳でも働く人が多い】子どもの世話がある 40 代～50 代）②担い手になれる人がそもそも高齢化している。70 代、80 代で次の担い手に繋ぐことができない。活動が属人化する傾向にある。③高齢者世代と稼働年齢層の人の考え方や生活歴やコミュニケーション手段のギャップがある。（例 回覧板を LINE で行う事によって、高齢者が置き去りになる。稼働年齢層からすると効率化して、負担を減らせる取り組みだが、そもそも SNS を使えない高齢者もいる等）

・高齢化に伴う担い手の不足、人材の重複、主体的に活動できる人材の不足

・高齢化、担い手不足を目の当たりにしており、若い世代を取り込みたいが、関わりが少なく周知先が課題

・全体的に、担い手の高齢化に加え、各種団体の会員数の減少、活動の縮小や休止、会の解散や解散間近な団体が増えている。このような現状を受けて有償ボランティア（有償活動）の推奨を求める声が増えている。社協として慎重に検討する必要がある課題となっている

・新しい団体の立上げが少ない。団体に属さず活動したい人が活動できる機会が少ない。

・本市においては、本会や市役所が、ある意味伝統的に「自治会」「民児協」「地区社協」を地縁に基づき活動する主要な組織・団体として捉え様々な地域活動の中心に考えてきたことで、三者の連携・協働によって各地区における福祉関連活動の強固な基盤が築かれている。したがって、当該三者の役員に様々な役割が集中しており、役員の負担が高まったり、次代の役員が見つかりづらくなったりしている現状がある。

・住民の福祉活動の担い手のすそ野を広げていくために、なるべくしがらみの少ない参加（参画）方法を用意したり、現状何の役にも就いていない住民と出会うための工夫と努力が必要だと思っています。

・若い人たちに任せられないが担い手不足という課題を持っている地区が多い。また、できないからやらないという風潮になりつつある。住民も、自分たちにメリットがないことに参加しないという意識の人が増えている。

・人材の発掘、役員の担い手、地域活動メンバーの担い手 ボランティアと地域住民の高齢化

・町内会や民生委員・児童委員など複数の役割を担っている方が多い。

・少子高齢化、共働き世帯の増加、就労期間の延伸等により固定された方が担い手を継続せざるを得なくなっています。今後は広く市民（普段福祉と関りのない方々を含む）にボランティアや福祉活動へ関心を持ってもらう必要があると捉えています。

・定年延長など社会的な仕組みの上から地域活動への参加年齢が上がっている。当区では外国人の居住率が全国よりも高いことから、外国人の永住者など地域で関りが持てそうな方々に対する双方のアプローチについて検討をしている。

・地区社協をはじめ地域のボランティア団体など地域福祉に関わっていただける新しい人材の発掘、育成が大きな課題になっている。高齢化し、後継者が入らず解散するボランティア団体が出てきている。

・個人ボランティア数は新規登録と登録削除があっても例年同じくらいの登録人数を何とかキープできているが、地区社協・民児協・自治会も含めて地域の活動に 60 歳代以下が入ってこない。今までの地域

づくりではなく、新たな視点で考えた地域づくりと担い手育成を考える時期に来ていることを感じているものの、新たに具体的にすべきことが市社協としても手をこまねている。

- ・深刻な課題であって、現在のやり方では継続できないことも今後多くなることが見込まれる。あり方を考え直さなければならない。

- ・地域活動への動機づけが難しい時代になってきている感がある

- ・町自体の高齢化率が42.97%で役員等の高齢化はしかたないが、活動の継続を考えるとしたら、若い年齢層の方たちにも参加できるよう検討していきたい。

- ・「いつも担ってくれる人」から「できるところに来てくれる人」への視点の転換が必要。「担い手になってくれる人」だけでなく、「ちょっと見てみたい・試してみたい」を受け入れることの準備が必要。上記は、市社協からも提案もし、地区内で意見交換等をするとして「そういうことも必要」と理解はするものの、実際に上記のような枠を作ること・場面を提案しても、取り組みまでが難しい（今いる人がそれに取り組まなくてはならないことへの負担もある）。

- ・市民活動が活発な地域であり、社協以外の複数の中間支援組織が発足し、同じような人材育成の取り組み（講座や交流会、イベント等）をしているため、福祉以外のボランティアや余暇活動に区民の選択肢が流れていく傾向があります。また、広報力や財源の差も感じています。

- ・ボランティアの固定化

- ・ボランティア活動者の減、役員の成り手候補の減もあるが、ボランティアを生活支援活動につなぐための本会の仕組みづくりができていない。

- ・働く期間が長くなっていることから、地域デビューが70代であることが課題。働き方改革の始まっている中で、新しい感覚を持った住民をどう既存の活動団体が受け入れられるかが課題と感じている。また、その人たちに合った活動を見出すことが課題。

- ・地区社協が求める担い手と、担い手が求める活動がマッチしていないため、一定数活動希望者がいても担い手が増えないという現象が起きていることが課題だと思う。今の時代は担い手側の興味関心のあることをどう福祉に結び付けるかという視点、つまり担い手側のカスタマイズが求められるが、そこまで細やかに対応するのは地区社協には負担。

- ・地域ごとに、成り立ち、組成（年齢層など）が異なり、課題感も様々です。複数回答可の設問では、課題に対しての対応も異なっているため、回答が絞れなくなっています。地域によっては、うまく新陳代謝（担い手の入れ替わり、代替わり）が出来ず、組織の維持事態に困難を抱えているところも出てきています。市社協としては、全体を一律に底上げすることは現実的ではないと考えています。

- ・少子高齢化、労働人口の高年齢化により昭和、平成で担い手となっていた専業主婦や60歳定年後の男性の総数が平成後期より劇的に減少している。このような状況の中、企業や福祉事業所、生活支援型NPO等をいかに地区社協に参画いただくかが重要と考える。

- ・現在、地区社協の役員に対しての報酬の必要性が問われています。それが新たな担い手へ繋がる手掛かりのひとつになるかもしれません。ボランティアや住民活動についても同じことが言えるかもしれませんが、まずは組織体制や活動内容の見直しをすることが大切だと考えます。

- ・高齢になっても働いている人も多く、フリーな人が少なくなった。地区社協は自治会や民生委員、ボランティア団体等が主な構成員だが、担当地区では自治会加入率の低下も著しい状況。民生委員のなり手不足も伴い、地区社協活動に対する住民参加の度合いは弱くなっていると感じる。地域の中で子ども会、老人クラブ等地域の団体が解散していく中、いかに所属に限らない人を巻き込んでいくかが課題だと思う。
- ・全体的に高齢化が進んでおり、担い手不足を課題としているボランティア団体が多い。

（地区社協なしの社協）

- ・組織として自治会だけであり、地区社協や自治会福祉部などの地域福祉の住民組織がなくアプローチ先として課題がある。
- ・福祉活動は、町域も狭く地区社協もないため町域全体を対象に実施しているが、現在、ボランティア活動に参加している住民の年齢が高齢化しており、ボランティア活動への若年層の住民の参加が課題となっている。
- ・町内に地区社協はありませんが、ボランティアや住民の福祉活動（自治会活動含む）に係る担い手不足が課題となっています。
- ・ボランティアや担い手の高齢化。ボランティアに関しては団体数が数年前から減少してきている。
- ・当市は地区社協制度はありません。地域におけるボランティア活動として、主に自治回単位で地域あんしん生活サポート事業「お互い様活動」といった見守り活動があります。全ての自治会区域で活動しているわけではなく、その内容もチームにより異なっています。
- ・既存の担い手が高齢になったことで活動が終了、縮小している。特に団体は次の担い手がおらず、解散を選択するケースが増えている。新規の担い手を獲得すべく講座等を開催するが、参加者が集まらない。参加者を増やせるようにと講座の開催を土日を設定することを検討するが、活動は平日なので活動につながりづらいことを考えると平日の開催になってしまう。ただ、時々新規の方の参加やボランティア活動希望者もあるため、こちら側の周知に課題があるのではないかとと思う。
- ・地区社協の設置はありませんが、希望される自治会へ小地域福祉活動費を単年度助成し、福祉活動やサロン活動、見守り支援等を行なっていただいています。当町においては、人口減少、自治会からの脱会、高齢化による担い手の減少等が課題となっています。地域におけるコーディネータの発掘・育成を進めていければと考えています。

IV.調査票

住民福祉活動の担い手等に関する調査

地区社協など小地域の地域福祉推進組織の担い手に関する実態は自明な面はありますが社会的に共有できるほど明確にはされていません。そこで実態を把握する調査を実施することといたしました。ぜひご協力をお願いいたします。

* 必須の質問です

1. 貴市区町村内に、地区社協など小地域の地域福祉推進組織（以下「地区社協等」）はありますか。 *

1つだけマークしてください。

- ☐ ①全て①全ての地区にある 質問2にスキップします
- ☐ ②概ね全地区にある 質問2にスキップします
- ☐ ③概ね半数の地区にある 質問2にスキップします
- ☐ ④一部の地区にある 質問2にスキップします
- ☐ ⑤ない 質問27にスキップします

質問27にスキップします

「ある」と回答された社協は以下にご回答ください。

2. 地区社協等のうち最も歴史が長いところは、おおよそ何年くらいの活動歴ですか *

1つだけマークしてください。

- ☐ ①50年以上
- ☐ ②40～50年未満
- ☐ ③30～40年未満
- ☐ ④20～30年未満
- ☐ ⑤10～20年未満
- ☐ ⑥5年～10年未満
- ☐ ⑦5年未満

- 3。 最も歴史が短いところは、おおよそ何年くらいの活動歴ですか *

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 50年以上
☐ ② 40～50年未満
☐ ③ 30～40年未満
☐ ④ 20～30年未満
☐ ⑤ 10～20年未満
☐ ⑥ 5年～10年未満
☐ ⑦ 5年未満

- 4。 地区社協等の会長の年齢層を教えてください *

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 主に80歳代以上である
☐ ② 主に70歳代である
☐ ③ 主に60歳代である
☐ ④ 主に60歳未満である

- 5。 会長以外の役員（副会長、理事など）の主な年齢層を教えてください。 *

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 主に80歳代以上である
☐ ② 主に70歳代である
☐ ③ 主に60歳代である
☐ ④ 主に60歳未満

6. 役員以外で地区社協等の活動を担っている主なメンバー（例えばサロンの担 ★
い手等の活動者など）の年齢層を教えてください

1つだけマークしてください。

- ☐ ①主に80歳代以上である
☐ ②主に70歳代である
☐ ③主に60歳代である
☐ ④主に60歳未満である
☐ ⑤役員以外のメンバーはいない

7. 地区社協等の担い手（役員や地域活動メンバー）の年齢層などについて、こ
こまでの質問では回答しきれない内容などがあればご記入ください。

8. 地区社協等の担い手（役員や地域活動メンバー）の高齢化がしばしば課題と ★
して指摘されますが、各地区の状況の主な傾向として当てはまるものはどれ
ですか

1つだけマークしてください。

- ☐ ①高齢化しており地区で課題となっている
☐ ②高齢化しており地区で課題となりつつある
☐ ③高齢化しており地区で課題となっていたが解消した
☐ ④高齢化しているが地区で課題とはなっていない
☐ ⑤高齢化していないが今後の課題となっている
☐ ⑥高齢化しておらず地区で課題とはなっていない

9. 主な担い手（役員や地域活動メンバー）が高齢化することによる課題は何ですか *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ①新しい取り組みがしにくい
☐ ②従来の活動を見直せない
☐ ③新しいメンバーが入りにくい
☐ その他: _____

10. 主な担い手が高齢化したり高齢者が中心となることの効果、良さはありますか *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ①豊富な経験を活かした活動ができる
☐ ②豊富なネットワークを活かした活動ができる
☐ ③地域の信頼が得られる
☐ ④高齢者の社会参加の場になる
☐ その他: _____

11. 全体の傾向として、地区社協の担い手（役員や地域活動メンバー）の人数 *
について不足はありますか

1つだけマークしてください。

- ☐ ①不足している
☐ ②やや不足している
☐ ③不足はしていない

12. 地区社協等の担い手について人数以外で現在不足していると思われる参加者 *
層はありますか

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ① 特にない
- ☐ ② 新しく参加する人
- ☐ ③ 既存メンバーより年齢層が若い人
- ☐ ④ 自分から希望して参加する人
- ☐ ⑤ 役員になれる人
- ☐ ⑥ 実際の地域活動（サロン、イベント、生活支援など）を担える人
- ☐ ⑦ 事務能力のある人
- ☐ ⑧ 男性の参加者
- ☐ ⑨ 女性の参加者
- ☐ その他: _____

13. 各地区全体の傾向として、地区社協等の新しい担い手はみつかっていますか *

1つだけマークしてください。

- ☐ ① みつかっている
- ☐ ② 何とかみつかっている
- ☐ ③ ほとんどみつかっていない
- ☐ ④ 全くみつかっていない

14. 新しい担い手がみつかる場合、現在は主にどの年齢層ですか *

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 80歳才代以上
- ☐ ② 70歳才代
- ☐ ③ 60歳代
- ☐ ④ 50歳代
- ☐ ⑤ 50歳未満
- ☐ ⑥ どの年齢層でもみつからない、みつけれない

15. 貴社協としては、地区社協等の担い手として参加を働きかけるとしたら、主 ^{*}
にどの年齢層をターゲットにすべきだと思いますか

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 80歳以上
☐ ② 70歳代
☐ ③ 60歳代
☐ ④ 50歳代
☐ ⑤ 40歳代
☐ ⑥ 30歳代以下

16. 地区社協等では、役員など運営の担い手をどういう方法でみつけていますか ^{*}

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ① いわゆる当て職でみつけている
☐ ② 地区社協等のホームページで募集している
☐ ③ 地区社協等の広報誌で募集している
☐ ④ 地区社協等でチラシを配布して募集している
☐ ⑤ 地区社協等でポスターを張って募集している
☐ ⑥ 地区社協等の役員やメンバーの口コミや紹介などでみつけている
☐ ⑦ 地区社協等で開催する研修会等でみつけている
☐ ⑧ 特に何もしていない
☐ その他: _____

17. 地区社協等では、役員以外の担い手をどういう方法でみつけていますか ^{*}

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ① いわゆる当て職でみつけている
☐ ② 地区社協等のホームページで募集している
☐ ③ 地区社協等の広報誌で募集している
☐ ④ 地区社協等でチラシを配布して募集している
☐ ⑤ 地区社協等でポスターを張って募集している
☐ ⑥ 地区社協等の役員やメンバーの口コミや紹介などでみつけている
☐ ⑦ 地区社協等で開催する研修会等でみつけている
☐ ⑧ 特に何もしていない
☐ その他: _____

18. 役員やそれ以外の活動メンバーについて、うまく新しい担い手を見つけている地区社協等がありますか *

1つだけマークしてください。

☐ ①ある

☐ ②ない

19. 「ある」と回答された場合は、その内容を記載してください。

20. 地区社協等の担い手を見つけるために貴社協として取り組んでいる支援はありますか *

当てはまるものをすべて選択してください。

☐ ①貴社協のホームページに募集を載せている

☐ ②貴社協広報誌に募集を載せている

☐ ③貴社協でチラシを作成して配布している

☐ ④貴社協でポスターを作成して各所に掲示している

☐ ⑤貴社協で担い手になりそうな人に声をかけている

☐ ⑥貴社協で開催する研修会などで募集を伝えている

☐ ⑦特段支援はしていない

☐ その他: _____

21. 新しい担い手を見つける上での地区社協等の課題と思うことは何ですか *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ①現在のメンバーでは、新しい参加者を探すことが負担でできない
- ☐ ②現在のメンバーでは、新しい参加者を探す方法がわからない
- ☐ ③現在のメンバーは、新しい参加者を必要としていない
- ☐ ④現在のメンバーは、新しい参加者を積極的には望んでいない
- ☐ ⑤現在のメンバーは、新しい参加者をうまく受け入れられていない
- ☐ ⑥活動内容の見直し
- ☐ ⑦長く活動しているメンバーの引退などメンバーの入れ替え
- ☐ その他: _____

22. 地区社協等住民の活動を進める上で、担い手メンバーの拠り所となる空間や居場所はありますか *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ①自分たちの活動拠点があり居場所となっている
- ☐ ②様々な会議や行事で集まる機会が居場所となっている
- ☐ ③役員やメンバーの自宅が居場所となっている
- ☐ ④貴社協の事務所が居場所となっている
- ☐ ⑤居場所に相当する場はない
- ☐ その他: _____

23. 地区社協等で常時専有できる活動場所（活動拠点）をもつことについて地区の状況を教えてください *

1つだけマークしてください。

- ☐ ①活動拠点がすでにある
- ☐ ②無料または低額で借りられる場所があればほしい地区はたくさんある
- ☐ ③無料または低額で借りられる場所があればほしい地区は一部にはある
- ☐ ④無料または低額で借りられる場所があっても持とうと思う地区はない

24. 活動内容について伺います。地区社協等で買い物や片付けのような生活支援 ★
活動への取り組みをしていますか

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ①全地区で取り組んでいる
☐ ②概ねすべての地区で取り組んでいる
☐ ③概ね半数の地区で取り組んでいる
☐ ④一部の地区で取り組んでおり広がりつつある
☐ ⑤一部の地区で取り組んでいるが広がりはない
☐ ⑥取り組んでいる地区はない

25. 地区社協等について、あるいはそれに限らずボランティアや住民の福祉活動の
担い手に関して社協として課題と考えることなど自由にご意見を記入願いま
す。

26. 「貴社協名」「ご担当者名」を以下にご記入願います。 ★

「ない」と回答された社協は以下にご回答ください。

27. 地区社協等について、あるいはそれに限らずボランティアや住民の福祉活動の
担い手に関して社協として課題と考えることなど自由にご意見を記入願いま
す。

2025 年 2 月 10 日

神奈川県内市区町村社会福祉協議会ご担当者各位

公立大学法人神奈川県立保健福祉大学

保健福祉学部社会福祉学科教授 中村美安子

『神奈川県内地域福祉推進組織（地区社協等）の担い手に関する調査』への
ご協力について（依頼）

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、今般、神奈川県社会福祉協議会地域課のご協力を得て、『神奈川県内の地区社協等
地域福祉推進組織（地区社協等）の担い手に関する調査』を実施いたします。つきまして
は、お忙しいところ大変恐縮ですが皆様に本調査へのご協力をいただきたくお願い申し上げ
ます。

記

1. 調査名：『神奈川県内地域福祉推進組織（地区社協等）の担い手に関する調査』
2. 趣 旨：担い手の高齢化や不足、次世代確保の問題など課題について語られることが
ありますが、地区社協等住民活動の担い手の実態に関する県内のデータは整備されて
いません。本調査は、その実態を把握し基礎資料を整備する目的で実施します。
3. 形 式：Googleアンケート
4. 締め切り：2025 年 2 月 28 日（金）
5. 調査責任者：中村美安子^{なかむら みやこ}（神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部社会福祉学科）

調査協力：（福）神奈川県社会福祉協議会地域課

*本研究は、JSPS 科研費 JP19K02269 の一環として実施するものです。

<問い合わせ先>

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部
社会福祉学科 中村美安子^{なかむら みやこ}
nakamura-myk@kuhs.ac.jp

本研究は、JSPS 科研費 JP19K02269 により実施した。

神奈川県内地域福祉推進組織（地区社協等）
の担い手に関する調査報告書

2025 年 3 月

中村美安子
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学
保健福祉学部社会福祉学科

〒238-2672 横須賀市平成町 1-10-1